

貸借対照表

2021年3月31日

一般社団法人日本内部監査協会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	221,470	476,579	△ 255,109
預金	1,104,534,981	1,121,227,582	△ 16,692,601
未収会費	2,767,000	2,600,000	167,000
未収入金	27,573,280	8,262,630	19,310,650
未収収益	14,692	75,495	△ 60,803
前払費用	11,299,248	12,208,513	△ 909,265
未成業務支出金	51,694	25,200	26,494
棚卸図書	9,816,300	11,627,062	△ 1,810,762
仮払金	0	0	0
流動資産合計	1,156,278,665	1,156,503,061	△ 224,396
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	219,984,005	195,834,131	24,149,874
減価償却引当資産	55,327,167	51,165,565	4,161,602
奨学・表彰引当資産	26,012,698	24,662,116	1,350,582
記念事業等引当資産	0	0	0
システム改修開発資産	150,000,000	150,000,000	0
特定資産合計	451,323,870	421,661,812	29,662,058
(2) その他固定資産			
建物付属設備	13,738,197	17,046,413	△ 3,308,216
什器備品	1,805,851	2,406,238	△ 600,387
ソフトウェア	257,040	671,040	△ 414,000
リース資産	13,457,760	5,932,224	7,525,536
敷金・保証金	98,992,792	98,261,432	731,360
その他固定資産合計	128,251,640	124,317,347	3,934,293
固定資産合計	579,575,510	545,979,159	33,596,351
資産合計	1,735,854,175	1,702,482,220	33,371,955
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	33,093,191	29,654,971	3,438,220
未払費用	4,394,177	4,564,744	△ 170,567
未払消費税等	2,766,800	10,665,000	△ 7,898,200
前受金	6,315,292	1,120,992	5,194,300
前受会費	47,128,000	50,738,000	△ 3,610,000
未成業務受入金	0	0	0
預り金	1,950,010	2,195,580	△ 245,570
仮受金	0	0	0
短期リース債務	5,949,240	2,744,064	3,205,176
賞与引当金	15,330,000	15,300,000	30,000
未払法人税等	140,000	140,000	0
流動負債合計	117,066,710	117,123,351	△ 56,641
2. 固定負債			
退職給付引当金	155,513,305	137,342,731	18,170,574
役員退職慰労引当金	64,470,700	58,491,400	5,979,300
長期リース債務	7,508,520	3,188,160	4,320,360
固定負債合計	227,492,525	199,022,291	28,470,234
負債合計	344,559,235	316,145,642	28,413,593
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	1,391,294,940	1,386,336,578	4,958,362
(うち特定資産への充当額)	231,339,865	225,827,681	5,512,184
正味財産合計	1,391,294,940	1,386,336,578	4,958,362
負債及び正味財産合計	1,735,854,175	1,702,482,220	33,371,955

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

一般社団法人日本内部監査協会
(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	26,004	33,627	△ 7,623
②入会金	3,870,000	5,130,000	△ 1,260,000
③会費			
正会員会費	268,800,000	264,650,000	4,150,000
IIA個人会員会費	143,140,000	134,094,000	9,046,000
④事業収益			
研究交流事業	26,983,000	52,457,461	△ 25,474,461
教育研修事業	223,888,650	430,457,009	△ 206,568,359
刊行事業	23,348,010	29,905,302	△ 6,557,292
国際認定資格事業	195,538,412	200,670,756	△ 5,132,344
⑤雑収入			
受取利息	57,812	99,741	△ 41,929
雑収入	559,877	1,489,454	△ 929,577
経常収益計	886,211,765	1,118,987,350	△ 232,775,585
(2) 経常費用			
①事業費	788,780,396	928,501,592	△ 139,721,196
役員報酬	5,775,660	5,775,660	0
給料手当	156,236,920	163,140,527	△ 6,903,607
退職給付費用	16,126,384	17,795,636	△ 1,669,252
役員退職慰労引当金繰入額	1,494,825	1,494,300	525
福利厚生費	29,924,992	31,728,325	△ 1,803,333
会場費	4,367,035	80,074,623	△ 75,707,588
会議費	1,863,419	20,306,695	△ 18,443,276
会費	37,063,943	26,103,491	10,960,452
旅費交通費	7,157,453	30,900,000	△ 23,742,547
通信運搬費	19,658,063	35,655,672	△ 15,997,609
減価償却費	8,896,708	7,770,265	1,126,443
消耗什器備品費	3,040,242	6,285,610	△ 3,245,368
OA機器費	29,154,240	33,068,528	△ 3,914,288
資料印刷費	46,317,773	60,061,380	△ 13,743,607
奨学表彰費	2,096,000	2,220,200	△ 124,200
賃借料	128,400,141	126,426,500	1,973,641
光熱費	3,634,667	4,876,149	△ 1,241,482
諸謝金	21,333,081	47,033,095	△ 25,700,014
租税公課	25,800,698	31,566,545	△ 5,765,847
支払寄付金	49,072,300	1,221,300	47,851,000
委託費	67,802,651	72,827,637	△ 5,024,986
支払手数料	121,623,761	118,486,017	3,137,744
慶弔費	0	10,000	△ 10,000
雑費	1,939,440	3,673,437	△ 1,733,997

正味財産増減計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

一般社団法人日本内部監査協会
(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
②管理費	92,473,007	97,416,213	△ 4,943,206
役員報酬	21,330,340	21,884,340	△ 554,000
給料手当	28,840,537	32,168,496	△ 3,327,959
退職給付費用	2,044,190	2,255,783	△ 211,593
役員退職慰労引当金繰入額	4,484,475	4,482,900	1,575
福利厚生費	5,280,875	5,599,111	△ 318,236
会場費	0	390,000	△ 390,000
会議費	1,520	21,235	△ 19,715
会費	17,280	17,244	36
旅費交通費	1,203,748	3,003,449	△ 1,799,701
通信運搬費	963,414	744,113	219,301
減価償却費	883,655	911,980	△ 28,325
消耗什器備品費	156,708	156,322	386
OA機器費	1,637,509	1,647,134	△ 9,625
資料印刷費	324,430	499,796	△ 175,366
管理諸費	10,009,937	9,156,915	853,022
賃借料	13,809,559	13,467,446	342,113
光熱費	358,353	377,161	△ 18,808
諸謝金	0	70,400	△ 70,400
租税公課	56,039	46,403	9,636
委託費	756,250	27,500	728,750
支払手数料	33,522	33,165	357
慶弔費	0	0	0
雑費	280,666	455,320	△ 174,654
経常費用計	881,253,403	1,025,917,805	△ 144,664,402
評価損益等調整前当期経常増減額	4,958,362	93,069,545	△ 88,111,183
特定資産評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,958,362	93,069,545	△ 88,111,183
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,958,362	93,069,545	△ 88,111,183
一般正味財産期首残高	1,386,336,578	1,293,267,033	93,069,545
一般正味財産期末残高	1,391,294,940	1,386,336,578	4,958,362
受取補助金等	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
	1,391,294,940	1,386,336,578	4,958,362

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸図書・・・書籍別の移動平均法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く） 定額法

無形固定資産（リース資産を除く） 定額法

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

(3) 賞与引当金の計上基準

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の内当期間に帰属する額を計上している。賞与引当金見込額に対する福利厚生費を未払費用に計上している。

(4) 退職給付引当金の計上基準

職員については期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末要支給額を計上している。

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

区分	資産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産	退職給付引当資産	195,834,131	24,149,874	-	219,984,005
	減価償却引当資産	51,165,565	4,161,602	-	55,327,167
	奨学・表彰引当資産	24,662,116	10,001,438	8,650,856	26,012,698
	システム改修開発資産	150,000,000	-	-	150,000,000
	特定資産計	421,661,812	38,312,914	8,650,856	451,328,870

4. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
退職給付引当資産	219,984,005		—	219,984,005
減価償却引当資産	55,327,167	—	55,327,167	—
奨学・表彰引当資産	26,012,698	—	26,012,698	—
システム改修開発資産	150,000,000	—	150,000,000	—
合 計	451,323,870	—	231,339,865	219,984,005

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	55,646,358	41,908,161	13,738,197
什器備品	14,971,858	13,166,007	1,805,851
ソフトウェア	3,568,800	3,311,760	257,040
リース資産	28,698,840	15,241,080	13,457,760
合 計	102,885,856	73,627,008	29,258,848

6. その他

(1) 退職給付関係

①使用している退職給付制度の概要

職員に対して確定給付型の制度として退職一時金制度を設けている。

②退職給付債務及びその内訳

(単位：円)

退職給付債務	△ 155,513,305
退職給付引当金	△ 155,513,305

③退職給付費用に関する事項

(単位：円)

勤務費用	18,170,574
退職給付費用	18,170,574

④退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算している。

(2) ファイナンス・リース取引関係

I 所有権移転ファイナンス・リース取引

該当なし。

II 所有権移転外ファイナンス・リース取引

電話主装置・電話機、印刷機

附属明細書

1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、財務諸表の注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	15,300,000	15,330,000	15,300,000	0	15,330,000
退職給付引当金	137,342,731	18,170,574	0	0	155,513,305
役員退職慰労引当金	58,491,400	5,979,300	0	0	64,470,700

監査報告書

2021年5月13日

一般社団法人 日本内部監査協会
代表理事 土屋 一喜 殿

監事 島戸 俊明 ㊟

監事 石原 基康 ㊟

2020年4月1日から2021年3月31日までの第14期事業年度の事業報告、計算書類及びその附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1 監査の方法及びその内容

監事は、一般に認められた監査手続に従い、理事会その他の重要な会議に出席し、重要な決裁文書等を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、随時説明を求めました。また、当法人の外部監査人より、会計帳簿、会計書類の状況に関し、定期的に報告を受け、さらに適正意見が付された外部監査人監査報告の説明を受け、意見交換いたしました。

2 監査の結果

- (1) 事業報告は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類とその附属明細書は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

独立監査人の監査報告書

2021年5月13日

一般社団法人日本内部監査協会

代表理事 土屋 一喜 殿

公認会計士東勝次事務所

公認会計士 東 勝次 ㊞

監査意見

私は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般社団法人日本内部監査協会の2020年4月1日から2021年3月31日までの2020年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインII-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明のための基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の遂行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に

又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等監査の目的は、内部統制の有効性について意見を表明するものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上